

# 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中郵支部  
機関紙「みらい」  
NO. 4264  
22年7月8日(金)  
Tel・Fax 095-828-1953

# 郵政ユニオン第11回 定期全国大会開催

おはようございます。

7月1日(金)～2日(土)の2日間、東京労働会館ラパスホールにて郵政産業労働者ユニオン第11回定期全国大会がリモート併用で開催されました。

代議員で出席した九州地本米地委員長からの大会報告を掲載します。

郵政ユニオン結成10年の節目を迎えた中で、郵政ユニオン第11回定期全国大会が開催されました。



開会にあたり日巻中央執行委員長の挨拶では、「ロシアのウクライナイ侵略に抗議し、それを口実として改憲論議や核保有・敵基地攻撃能力の保有を声高に叫ぶ現政権へ非難するとともに、参院選において、日本の恒久平和を求め、労働者・市民のためになる政治の実現に向けて、私たちが持つ一票一票の力で、政治を大きく変えていこう」と訴えました。

また、日本郵政をめぐる動きでは、利用者サービスの低下を伴いながら当初より速いスピードで進められている「JPBジョン2025」を指摘し、民営・分社化から15年の今、日本郵政グループの現状を検証するとともに、郵便局が果たしている役割、機能を維持・発展させ、ユニバーサルサービスを守る運動を展開していく。

結成10年の節目を迎えるにあたって、結成大会において、「一人ひとりの組合員の意志を尊重し、要求にもとづく団結を大切にし、郵政で働くすべての労働者の期待に応え

る労働組合をつくっていく」と宣言した原点に立ち返り、たたかいを進めていく決意を示しました。



2日間の大会では、リモートを含め全国から31名の代議員が出席し、活発な議論がなされました。各地からの報告では、

特にユニオンの組織の無い職場では、パワーハラが横行している。

非正規社員の待遇改善に加え、一般職の処遇改善を求める声が大きい。慢性的な要員不足に伴う労働強化など、多くの切実な声が訴えられました。そのような中で、一つの問題の解決に向けて奔走した各地の組合員の報告や、春闘においてストライキをたたかいた組織力が向上したなど、全国で奮闘した組合員の意見を聞き、郵政ユニオンの組織の存在の重要性を実感しました。最後に株主総会において、「会社は5000億



円もの収益を上げているが、社員へ報いているのか。配達員も窓口社員も見ていて元気がない。新型コロナウイルスに感染した社員も多いと聞いている。そのような中で働く社員への臨時手当支給などの対処をすべきではないのか。」という株主からの質問が出されたことが紹介されました。誠意の無い会社の対応を非難するとともに、大会スロガンを確認し、この一年を奮闘する決意を込めて、大会は終了しました。

## 2022年度 中央執行体制 役員紹介

役職	氏名	所属支部
執行委員長	日巻直映	東京・世田谷
副執行委員長	兼子隆	東京・杉並南
	家門和宏	近畿・京都中郵
書記長	上平光男	東京・目黒
書記次長	安達幸人	東京・板橋北
執行委員	吉田実	東京・銀座
	富樫浩行	東京・銀座
	樋口絡	近畿・向日町
	大沼秀敏	関東・埼玉
	谷川紀子	東京・東京特定局
	石野利昌	中国・呉
	本宮美明	東京・新東京
会計監査	青柳翔太郎	関東・浦安
	浅川喜義	東京・晴海
	青天目勝幸	関東・東埼玉

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を主眼の正社員化を。

めげず、均等待遇を。

なぐさし差別！

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

